

何事も「任せて頂く」という
気持ちをお忘れなさい

樋管とは、堤防下を横断して、市街地の水を河川に排出する、水門のような施設。杉村さんは、その管理を20年以上も続けています。昨年の11月には、その功績を称えて「国土交通省中部地方整備局長表彰」を受け、静岡河川事務所長からも感謝状が贈られました。

【他人ごとではないから】

杉村さんが、町内の「下島排水樋管」の点検・操作・清掃を市から依頼されたのは、平成4年のこと。点検は月に1〜2回でも、操作や見回りは降雨の数だけあります。梅雨時や台風通過ともなれば、昼夜を問わず操作室に駆け付けます。

「二人一組とはいえ、雨が
続くと緊張するね。特に夜は、



児童からの
感謝の寄せ書き

往復だけでも命懸け。でも、樋管を操作しないと、地元だけでなく、中心市街地も冠水してしまうかもしれない。人ごとじゃないから、誰かがやらないといけないんだよね」

だといいます。
「居を構えた頃、町内の諸先輩に見初められ、いろいろな役を『任せて頂いた』。そう捉えようと、何事も勉強だと思えるから…すると、その気



地域安全の番人(樋管管理人)
杉村 貫一さん (旭三丁目)

【人の輪が郷土愛を育む】
杉村さんは現在、交通指導員顧問や老人会島田支部長など、地域に根ざした役割を多く担っています。その献身的な活動の原動力は「学ぶ姿勢」

持ちを酌んで協力してくれる人が現れる。地域と強く関わることで、人の輪が広がり、自然と地元意識が芽生えることを実感したよ。信頼されて、学びながら役を全うすると、

地域の安心・安全や活性化などという形で、結局、自分の身にも返って来るしね」

【まずは自分が率先する】

地域社会の為にと始めた数々の活動の中でも、交通指導員歴は約40年。率先した街頭での声掛けが、子どもたちの心に届き、元気な返事や、時には感謝の贈り物で返って来るといいます。「確かに伝わっている、つながっている」と感じる瞬間だそうです。

「人と人のつながりは、挨拶から。知らない人だからといって、挨拶をして怒る人はいないでしょ。相手の心が動けば、いつか返事があるかもしれない。のんきな話しかけど、その一言が、地域を豊かにしてくれると思うんだよ。だから、登校する子どもたちへの毎朝の声掛けは、欠かせない。それが習慣となつて、弟や妹へ、子や孫へと伝わりと信じているからね」
杉村さんは今日も、水を防ぐ樋管だけでなく、地域の未来を担う子どもたちをも、目を細めて見守っています。



手動の水門を調節して
大井川に排水する



Shimadian File #34